



活水高等学校
活水中学校
No.42
2024年
3月12日



活ける泉

年間聖句
主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えて
くださる。
詩編 37編23節

自己有用感

活水高等学校 校長 安部成年

高校の卒業式を先月行いましたが、3月13日には中学校の卒業式を挙行します。中学3年生の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。義務教育を終え、これからまた一つ上のステージで自分を磨いていくこととなりますが、引き続き何事にも前向きな姿勢で挑戦していきましょう。今後のさらなる成長と活躍を祈念しています。

ところで、国立青少年教育振興機構が2023年6月に、日本とアメリカ、中国、韓国の高校生の意識調査について報告書を出しています。それによると、「今の自分が好きだ」という項目で、「とてもそう思う」「まあそう思う」という肯定的回答をした人の比率（小数第一位四捨五入）は、アメリカ75%、中国71%、韓国68%に対して、日本は54%でした。また、「自分はダメな人間だと思うことがある」という項目については、アメリカ61%、中国51%、韓国49%に対して、日本は79%でした。

日本の高校生の自己評価が他国に比べて上記のように低いのは、文化的背景の違いがあるからなのかもしれませんが、今後ますます他国の人々と交流する機会が増えていくことを考えると、日本人はもっと自尊心を高めていく必要があるように思います。そしてそのためにも、「自己有用感」を高めることが必要なのではないでしょうか。

「自己有用感」は、他人の役に立った、他人に喜んでもらった等、相手の存在なしには生まれてこない自己評価であるという点で、「自尊心（自己肯定感）」と同じではなく、この二つの関係は、図のようになっていると言われています。よって、自己有用感を高めることで必ず自尊心も高まっていくと考えられます。



人を助けたり喜ばせたりするなどの経験を積み重ねながら人は自己有用感を高めていくのだと思いますが、日本の子供たちには、人のために役立ったと思えるような経験をもっとたくさん積みませ、そしてその都度しっかり評価してやる必要があるのではないかと思います。と、今はこんなことを書いていますが、自分自身、かつてそれを意識的に実践できていたかという、できていなかったというのが実情です。

なお、生徒の皆さんは将来、社会人となって働くこととなりますが、働くということは、単に自分や家族の生活費を稼ぐだけでなく、仕事を通して社会に貢献するとともに税金を納めて社会を支えるということになります。だから人は誰もが、「自分はこの社会のために貢献することができる大切な存在である」という自己有用感を持っておくべきだと思っています。

中学卒業生に贈る言葉

卒業生の皆さんが3年前に入学した時、私も活水中学校に来たのでみんなとは同じ歴史を歩んだこととなります。あれから3年、大きく成長した皆さんを見ると心が熱くなります。この春からは高校生として新たな一歩を踏み出す皆さんには無限の可能性が秘められています。「Let's try ～優しく 賢く 笑顔いっぱい」で過ごしていると、たいていの事はどうにかなるものです。それぞれ大切に思うことを心にもちながら、優しく賢い笑顔が素敵な高校生に「Let's try!」



(長門祐二)

高校卒業生 巣立ち行く

2月14日（水）、第76回卒業式がチャペルで行われました。保護者等のご出席のもと、礼拝の形で式が進み、卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。



感謝の辞

第76回卒業生代表 藤井和花

私たちは3年前、希望と不安を抱えて、神様のお導きにより活水のこのチャペルに集いました。初めての礼拝、新しい友達との出会い。はじめはぎこちなかったけれど、多くの行事を経てお互いのことを知ろうとしました。



思い返せば良いことばかりの3年間ではありませんでした。新しい人間関係に戸惑い、思っていることをうまく伝えられず、すれ違いを経験したこともありました。時に自分を見失って居場所を探したこともありました。そんな時いつも味方になってくれたのは両親や友人でした。何も与えることのできない私をそのまま受け入れてくれました。それを経験した私たちは、悩み苦しみながら確かに、一歩ずつ成長し、新しい自分を発見していきました。

これから私たちは、成人として社会の一員となります。今よりもさらに多くの人と関わっていかねばなりません。それは時に、自分の思い通りにならないかもしれませんが、しかしここで出会った仲間はいつとも味方になってくれるはずで、そんな存在がいることに感謝しなければなりません。

ペトロの手紙一 四章十節「あなたがたは神のさまざまな恵みの善い管理者としてその賜物を生かして互いに仕えなさい」これは、私の人生の指針となる聖句です。人生の指針、「いかに生きるか」という問いに基づいて、私は、私を育ててくれたすべての人、社会のために神様にいただいた賜物を存分に使い、恩返しすることが使命だと信じています。だからこれからも多様性のある時代の中で柔軟に学び続け、成長していきます。活水ではそれに気づかせてくれた先生や友達、そしてキリスト教と出会いました。卒業は別れと同時に新しい出発でもあります。ここ活水と、私たちを成長させてくれた全てに感謝して、卒業生代表のことばとさせていただきます。

(要約：津留美幸)

魂ゆずり

高校卒業式において行われる「魂ゆずり」は活水の伝統的な儀式です。創立者ラッセル先生の願いと卒業生の思いが託され、卒業生から在校生へと受け継がれていきます。



手桶には二本のリボンが結ばれますが、今年は、卒業生代表の瀬川凜香さんによって「純潔」を表す白いリボン、「優しく寄り添う心」を表す「ラベンダー色」のリボンが結ばれました。神様から頂いた無償の愛を心の支えとし、ラベンダーの花のように包み込む優しさを持ち続けられますように、また、喜びも悲しみも共に分かち合いながら相手の心に寄り添うことが出来る女性になってほしい、との願いが込められました。

(常泉晶子)

伝統ある魂ゆずりに携われたことを嬉しく思います。先輩方が結んでくださいましたラベンダー色のリボンで表される「優しく寄り添う心」を忘れずに活水の最高学年として自分らしく成長していきたいです。

(吉田幸加)

卒業礼拝

高校卒業礼拝は、式前日の2月13日（火）に行われました。学院宗教主任の崔炳一先生が、コリント二12章7～10節から、「神の恵み-弱さの中で発揮される神の力」と題し、神様の恵みは順調なときもそうでないときも豊かに与えられるとの希望をお奨めくださいました。讃美歌451番「くすしき恵み」の歌詞も贈られ、卒業していくⅢ年生の祝福が祈られました。



(石村直義)

吹奏楽ランタンパレード

2月17日(土)、ランタンパレード特別版に吹奏楽部が出演しました。今回は「福山雅治」さん「仲里依紗」さんが皇帝・皇后役をされると言うことで厳戒態勢の中でのパレードスタートでした。見たことのない人数のお客様が沿道にいました。生徒達は約1kmコースを出島メッセに向かって演奏をしました。大変重い楽器、そして演奏を休みなく続ける事は経験がなくハードだったと思いますが、終始笑顔で頑張りました。貴重な経験になりました。



(杉町たまみ)

中学お別れ遠足

2月27日(火)中学のお別れ遠足「キッドザニア福岡職場体験」が行われました。午前中は縦割りで、午後からは各学年で活動し、様々な職業を体験しました。



(生徒感想)
「やっぱり科学の研究は楽しかった」「どんな仕事も大変そうだ」「仕事するということは簡単な事ではない」「仕事をするうえで、助け合うことが大切だということに気づいた」「たくさん働かないとお金ももらえない」「楽しく仕事をするのは素敵なこと」「体験に来ていた小さい子が可愛かった」
…将来に向けての夢が広がった1日でした。(長門祐二)

弓道 ライオンズ杯

2月4日(日)に鳴滝高校特設弓道場で開催された長崎南ライオンズカップ青少年弓道大会で、本校から30人が出場。個人優勝決定戦では濱松さんと土肥さんが射詰6射に及び激戦の末、土肥さんが優勝。5位決定戦で川田さんが勝利。団体戦は本校7チームが決勝トーナメント進出。活水A(濱松、土肥、川田)と活水B(田邊、板谷、山中)の対戦は両チーム横皆中で始まる熱戦。活水C(森田、松本、平田)も競射を制して準決勝まで勝ち進みました。決勝戦では活水Aが前回覇者の長崎南高校を破って優勝を決めました。(梅本雄史)



高1 女子大とのパネルディスカッション

2月6日(火)LHR、活水女子大学4年生英語学科・松尾ひかりさん(全日本空輸(株)客室乗務員)、日本文化学科・山口咲綾さん(松藤グループ松藤商事(株))、子ども学科・北村美己子さん(長崎県公立小学校教員)の3名をお迎えし、パネルディスカッションを実施しました。「大学では自分で時間割を決めたり、アルバイトをしたりと自由な時間が持てると聞き、大学生生活が楽しみになった」、「先輩たちのように、自分も、高校生の今、目の前にあることに全力で取り組み、何事にも積極的にチャレンジしたいと思った」など、先輩方から良い刺激を受けたようです。(古田雄介)



高IIダンス発表会

2月7日(水)6校時に高IIダンス発表会を行いました。12月から、各クラスのダンス委員を中心に基本6番、創作ダンスと2つの作品を練習してきました。基本6番は、バレエの要素の入った作品で、美しく踊り、隊形移動工夫を考え、創作ダンスは、クラスの個性いっぱいの楽しい作品を考え披露しました。順位は、以下のとおりでした。(向井杏奈)
結果 1位 A組 2位 C組 3位 D組 4位 B組



大会等成績

<新体操>

高崎シルクカップ シニアの部
ボール 第6位 遠藤心花
リボン 第7位 久米つづり

<弓道>

長崎県弓道新鋭王座決定戦
女子の部 健闘賞 板谷・田邊・松尾・川津
長崎南ライオンズカップ青少年弓道大会
団体の部 優勝 濱松・土肥・川田
第3位 森田・松本・平田
個人の部 優勝 土肥
第2位 濱松
第5位 川田
ばんぺいゆ弓道大会
学生の部 第2位 中山
第3位 今出
第4位 濱松
第12位 木村

<吹奏楽部>

九州アンサンブルコンテスト
中学生の部 金賞 世古・松倉・宮崎
高校生ノブ 金賞 宮崎・本山・山口・荒嶋
北村・堤・山田凛・山田莉

<英語>

活水女子大学高校生英語プレゼンテーションコンテスト
第1位 山田佳音

<表彰>

日本私立中学高等学校連合会表彰 山越理央
(山口真樹人)



今月の聖句

「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。」
(マタイ 28章1節~10節)

今年のイースター(復活祭)は、3月31日(日)です。

「イースターは卵の日」と多くの生徒は嬉しそうに言います。なぜ生徒は嬉しそうに楽しそうに言うのかわかりませんが、イースターのシンボルの1つとして卵が用いられます。卵は、新たな命を生み出すという生命の象徴であり、固い殻を破って生まれてくる様子がキリストの復活を表していることからシンボルになっています。

「あの方は、復活なさった」天使は言いました。「復活」には、「起こされる」あるいは「立ち上がる」という意味があります。つまり、イエスは「起こされた」のです。十字架の苦しみと死から「神がキリストを立ち上がらせた」のです。そこには、希望を示すメッセージが与えられています。

私たちの人生は、良いときもあれば悪いときもあります。暗闇の中にいるときにこそ、「起こしてください」がそばにいてくれると心強いものです。復活の出来事は、まさに私たちが独りではないということ、そして立ち上がらせる勇気と希望の光が放たれ、喜びへと導かれる出来事なのです。「Happy Easter」

(常泉晶子)

3月行事予定	
1(金)	中2修学旅行(2月27日~3月1日)
2(土)	英語科発表会 高IⅡ特進土曜課外
5(火)	高I探究選考会(6校時)
8(金)	高II探究選考会(5・6・7校時)
9(土)	高IⅡ特進土曜課外
11(月)	高II特進路講演会
11(月)	中3卒業式練習(5・6校時)
12(火)	中学卒業礼拝(高校通常授業)
13(水)	中学卒業式(高校自宅学習日)
14(木)	ワックスがけ 40分授業
15(金)	高II探究大賞発表会
16(土)	高I探究大賞発表会
18(月)	新入生オリエンテーション①
19(火)	球技大会
20(水)	終業式
20(水)	春分の日
21(木)	春期自学会(27日)
28(木)	寄宿舎閉鎖(9時~30日12時)
31(日)	イースター
4月行事予定	
8(月)	始業式(午前)入学式(午後)
9(火)	特別時間帯(10日)
11(木)	通常授業開始
12(金)	歓迎行事
15(月)	面談週間 40分
16(火)	授業(19日) イースター礼拝

